



## 第15回年会「原点回帰とNext questions」開催

第15回日本エピジェネティクス研究会年会在、2022年6月9日～10日の2日間、九州大学医学部百年講堂において開催されました。本会は、JST さきがけ（ゲノム合成）、3つの新学術領域研究（配偶子構築、非ゲノム情報複製、クロマチン潜在能）、特別推進研究（階層オミックスによる卵子の発生能制御分子ネットワークの解明）との共催として、また、12の企業や団体に協賛していただきました。また講演はオンラインライブ配信を行い、339名（現地参加者251名、オンライン88名）の方に参加していただきました。一般演題24題、ショートトーク4題、ポスター発表97題、さらに佐々木裕之先生による特別講演、次回年会長である油谷浩幸先生による講演が行われました。

2007年に第1回の年会在開催されてから、エピジェネティクスの研究は大きく広がり、そして深まりました。動物、植物、微生物やヒトを含む様々な生物を対象に、分子レベルから個体集団レベルまでの研究が、テクノロジーの進化に支えられて、基礎、応用の面から活発に行われています。このような状況を踏まえて、本年会では「原点回帰とNext questions」というテーマを設定し、様々な研究者にエピジェネティクスに対する興味の原点と未来への夢を語っていただき、参加者の皆様には、各自の研究の行く末を見つめ直す契機にさせていただくことを趣旨として開催されました。今回は3年ぶりの現地開催ということもあり、講演会場では活発な質疑応答があり、ポスター会場でも盛んに議論が行われました。また、オンライン参加者からも多くの質問があり、このようなハイブリッド形式での開催が、今後の年会的スタイルとして定着していくかもしれません。

講演者の皆様、参加者の皆様、また、年会的運営をいただいた組織委員会、伊藤研究室の皆様、九州大学の関係者の皆様、大変ありがとうございました。

### 幹事会と総会が開かれました

- ▶ 6月9日に幹事会が、6月10日に総会が行われました。
- ▶ 2023年の年会的は、油谷浩幸幹事（東京大学）を年会長として、2023年6月19日、20日に学術総合センター、一橋講堂で開催される予定です。詳細は後日お知らせいたします。
- ▶ 2024年の年会長には、立花誠幹事（大阪大学）が選出されました。



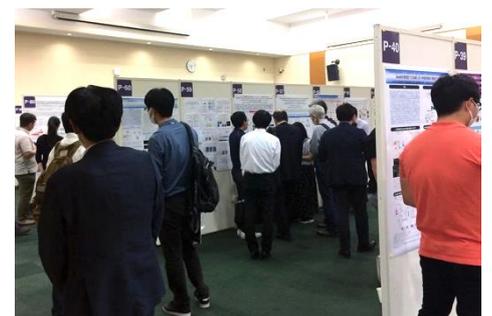
九州大学百年講堂 入口



講演会場



HP、要旨集のイラスト（作：岡田悟）



ポスター会場の様子



奨励賞受賞者の表彰が行われました

本会の賞等選考委員会による厳正な審査の結果、若手研究者の中から**越阪部晃永**さん（東京大学）が選ばれ、**中尾光善**代表幹事による表彰が行われました。

おめでとうございます！



以下、受賞者からいただいたコメントです。

この度はエピジェネティクス研究会奨励賞を頂戴し、大変光栄に存じます。2012年から参加して本研究会での憧れの奨励賞でしたので、受賞することができてとても嬉しかったです。今回の受賞対象となった研究を進める機会を与えてくださった、グレゴール・メンデル研究所の **Frederic Berger** 博士と東京大学大学院理学系研究科の角谷徹仁教授に御礼申し上げます。また、これまでの研究を進めていく上でご指導くださった共同研究者の先生方やラボの方々、そして研究室配属から現在に至るまで、親身に温かくご指導いただいている東京大学定量生命科学研究所の胡桃坂仁志教授へ心より感謝申し上げます。受賞の名に恥じないように、今後もエピジェネティクス研究者としてさらに面白い研究発表ができるように邁進してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

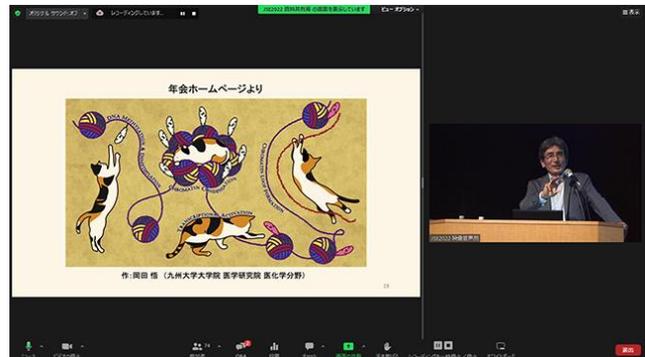


**越阪部 晃永**

東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 遺伝学研究室（角谷研究室）特任助教／  
JST さきがけ専任研究員



会場での質疑応答



Zoomの画面



## 第15回エピジェネティクス研究会年會を終えて



第15回年會長 伊藤隆司

6月9日、10日に福岡市の九州大学医学部百年講堂において開催された第15回日本エピジェネティクス研究会年會は、おかげさまで盛會裏に終了いたしました。

年會長としては、何よりもまず、3年ぶりに皆さんに對面で議論して頂く場を提供できたことに大きな安堵を覚えています。初日に會場のあちこちから旧知との再會を喜ぶ聲が聞こえてきた時には、これだけでこの年會は成功だと思ひました。本来ならば懇親會で更に交流を深めたかったのですが、感染防止の観点からそれは叶いませんでした。その意味では年會の様式を完全に復活できた訳ではありません。しかしながら、多岐に亘る興味深い発表と活発な議論

という年會の本質は、今年も健在でした。また、會場で姿をお見かけしなかつた方々がオンラインで質問されている様子を拝見すると、部分ハイブリッド化した意義も十分にあつたように思ひました。實際、参加者アンケートには、学務や育児などの都合で福岡まで出向けなかつた方々からオンライン配信に感謝する聲が多数ありました。興味深いことに、参加登録された會員の80%が現地参加されたのに対して、非會員の60%はオンラインを選択されました。オンラインが非會員の参加を促し、それが新規入會へとつながることを期待したいものです。

今回の年會はエピジェネティクス研究の拡がりや深まりを改めて実感させてくれました。抄録集の表紙イラストのように、それぞれの好奇心に駆られた研究者という三毛猫たちが様々な角度から色々なやり方で染色体やクロマチンと夢中になってじゃれ合っている様子を感じ取って頂けたのではないのでしょうか。そんな研究の魅力が伝わるセッションを企画して頂いたオーガナイザーの先生方、口演とポスターで発表して頂いた方々、そしてオンサイト・オンラインでご参加頂いたすべての皆さまに改めて心より感謝いたします。また、本年會の共催を快くお引き受け頂いた各研究プロジェクト代表の先生方、協賛・後援・技術協力を頂戴した各団体・企業 of 皆さま、そして年會準備にご尽力頂いた組織委員の先生方にもこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

來年6月に東京で開催される第16回年會で皆さまと再會できることを楽しみにしております。

### 情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年會に関するご意見・ご感想もよろしく願ひいたします。お近くの広報委員に気軽にe-mailください。

(代表) 近藤豊 (ykondo@med.nagoya-u.ac.jp)  
佐渡敬 (tsado@nara.kindai.ac.jp)  
齊藤典子 (noriko.saito@jfc.or.jp)  
沖昌也 (ma4sa6ya@u-fukui.ac.jp)  
中山潤一 (jnakayam@nibb.ac.jp)

### 日本エピジェネティクス研究会事務局

群馬大学 生体調節研究所  
生体情報ゲノムリソースセンター  
ゲノム科学リソース分野内  
庶務担当幹事：畑田出穂，担当：岩田浩美  
住所：〒371-8512 群馬県前橋市昭和町3-39-15  
TEL: 027-220-8111  
E-mail: jse-jimukyoku@ml.gunma-u.ac.jp